

ふりがな いい まさこ

氏名 井伊 雅子

1. 学歴

1986年 3月 国際基督教大学教養学部卒業

1993年 12月 ウィスコンシン大学マディソン校経済学部 博士課程修了, 博士号取得 (Ph. D., Economics)

2. 職歴・研究歴

1990年 7月 米国, ワシントン DC 世界銀行調査局研究員

1995年 4月 横浜国立大学経済学部助教授

2004年 4月 一橋大学大学院国際企業戦略研究科教授

2005年 4月 一橋大学大学院国際・公共政策大学院教授

2010年 1月 - 2014年 3月 東京大学公共政策大学院医療政策教育・研究ユニット特任教授

3. 学内教育活動

A. 担当講義名

(a) 学部学生向け

医療経済論Ⅱ

(b) 大学院

Microeconomics for Public Policy, Fundamentals of Econometric Methods, Economic Analysis of Social Policy, 公共支出論

B. ゼミナール

大学院

C. 講義およびゼミナールの指導方針

学部では東京医科歯科大学との連携講義で医療経済論Ⅱ, 大学院は主にアジア公共政策プログラム統計・計量経済学, ミクロ経済学の講義, 社会政策の経済学など(英語による)を担当している。国際・公共政策大学院で日本語の講義(公共支出論)を担当する年もある。

専門職大学院の教育として, 理論と現実の政策の接点に重点をおいて講義を行っている。

4. 主な研究テーマ

(1) 質と財政の両立を目指した医療制度構築(プライマリ・ケアのシステム)ための基盤研究

(2) 医療費統計の国際比較

(3) アジアの医療保健制度 (特に韓国と台湾)との比較分析

5. 研究活動

A. 業績

(a) 著書・編著

『医療サービス需要の経済分析』井伊雅子・大日康史, 日本経済新聞社, 2002年。

『アジアの医療保障制度』東京大学出版会, 2009年。

(b) 論文(査読つき論文には*)

* "Community Perceptions and the Demand for Health Services: El Salvador," (with Susan Kolodin) *Inter-America Development Bank Working Paper*, 1994.

"Japanese Health Care Reform in the Context of a Rapidly Aging Population," *Health Sector Reform in Asia, Proceedings of a Regional Conference, Asian Development Bank, Manila, Philippines*, 1995, pp. 519-529.

* "The Demand for Medical Care: Evidence from Urban Areas in Bolivia," *Living Standard Measurement Study (World Bank) Working Paper No. 123*, 1996.

"Enhancing the Effectiveness of External Assistance: Social Impact of Adjustment Programs," *Proceedings for the Seminar for Deepening Structural Reforms and Policies for Growth in Africa*, Ministry of Finance of Japan, IMF and the World Bank, Paris, France, 1996.

「高齢化の経済分析」(八代尚宏氏, 小塩隆士氏との共著)『経済分析』第151号, 経済企画庁経済研究所, 1997年。

「教育における市場と政府の役割について—3ヶ国の比較を中心に—」『市場と政府—ラテンアメリカの新たな開発枠組み』(小池洋一・西島章次編)第13章, アジア経済研究所, 1997年, 387-426頁。

「公共支出と貧困層へのターゲティング」『開発と貧困』(絵所秀樹・山崎幸治編)第4章, アジア経済研究所, 1998年, 131-159頁。

* 「家計データからみた南アフリカ共和国の貧困分析—特に家庭内送金と移住行動について—」(赤林英夫氏との共著)『アジア経済』Vol. 40, No. 9-10, 1999年, 165-182頁。

* 「風邪における医療サービスと大衆医薬の代替性に関する研究—独自アンケートに基づく分析—」(大日康史氏との共著)『医療と社会』Vol. 9, No. 3, 1999年, 69-82頁。

* 「軽医療における需要の価格弾力性の測定—疾病及び症状を考慮した推定—」(大日康史氏との共著)『医療経済研究』Vol. 6, 1999年, 5-17頁。

"Summary of Methods to Estimate Price Elasticity of Demand," *Handbook for the Economics Analysis of Health Sector Projects*, Asian Development Bank, 2000, pp. 85-94.

「疾病ごとの医療受診と大衆医薬需要の代替性」(大日康史氏との共著)『医療サービス:市場化の論点』(瀬岡吉彦・宮本守編)第5章, 東洋経済新報社, 2001年, 75-89頁。

* 「インフルエンザ予防接種の需要分析」(大日康史氏との共著)『日本公衆衛生雑誌』Vol. 48, No. 1, 2001年, 16-27頁。

「医療経済」『医学生のお勉強』(黒川清編著)第6章, 芳賀出版, 2002年, 339-429頁。

「患者負担増による医療費抑制効果」『医療白書 2002年度版』第2章, 日本医療企画, 2002年, 17-31頁。

* "Should the Coinsurance Rate be Increased in the Case of the Common Cold? An Analysis Based on an Original Survey," (with Yasushi Ohkusa) *Journal of the Japanese and International Economies* 16, 3, 2002, pp. 353-371.

* "Price Sensitivity of the Demand for Medical Services for Minor Ailments: Econometric Estimates Using

- Information on Illness and Symptoms," (with Yasushi Ohkusa) *The Japanese Economic Review* 53, 2, 2002, pp. 154-166.
- * 「わが国における女性賃金水準の就業行動への影響の分析」(縄田和満氏との共著)『日本統計学会誌』第 32 巻, 第 3 号, 2002 年, 279-290 頁。
- * 「疾病毎の医療受診と OTC 需要の代替性に関する分析」(大日康史氏との共著)『季刊・社会保障研究』第 38 巻, 第 2 号, 2002 年, 157-165 頁。
- 「「ゲーム理論」の導入が抜本改革への近道」『ばんぶう』日本医療企画, 2002 年, 60-67 頁。
- 「医療費を考える: 消費者の需要行動と医療の質から」『患者のための医療』篠原出版新社, 2003 年, 733-738 頁。
- * 「生活習慣と主観的健康評価についての実証分析」(両角良子氏との共著)『医療と社会』Vol. 13, No. 3, 2003 年, 45-72 頁。
- * 「横浜市における救急医療の需要分析」(大重賢治氏, 縄田和満氏他との共著)『日本公衆衛生雑誌』Vol. 50, No. 9, 2003 年, 879-889 頁。
- 「社会保障」現代世界経済叢書『日本経済論』(植松忠博・小川一夫編著)第 10 章, ミネルヴァ書房, 2004 年, 227-250 頁。
- * 「職場の喫煙規制に関する実証分析」(両角良子氏との共著)『医療と社会』Vol. 14, No. 1, 2004 年, 109-124 頁。
- * "Estimation of the Labor Participation and Wage Equation Model of Japanese Married Female by the Simultaneous Maximum Likelihood Method," (with Kazumitsu Nawata) *Journal of the Japanese and International Economies*, 18, 2004, pp. 301-315.
- * 「眼科水晶体手術における在院日数の離散型比例ハザード・モデルによる分析」(縄田和満, 石黒彩, 川渕孝一氏との共著)『医療経済研究』Vol. 18, No. 1, 2006 年, pp. 41-55。
- 「医療の基礎的実証分析と政策: サーベイ」(別所俊一郎氏との共著)『フィナンシャルレビュー』第 80 号, 2006 年, 117-156 頁。
- * "The impact of smoke-free workplace policies on smoking behaviour in Japan," (両角良子氏との共著) *Applied Economics Letters* 13, 2006, pp. 549-555.
- * 「水晶体の単眼・両眼手術における在院日数の分析」(縄田和満, 石黒彩, 川渕孝一氏との共著)『医療と社会』Vol. 16, No. 2, 2006 年, 167-180 頁。
- 「データに基づいた医療政策」『日本医師会雑誌』第 135 巻, 第 12 号, 別冊, 2007 年, 35-48 頁。
- "History of Health Insurance Systems in Japan from Meiji to Showa: From Nothing to Universal," *Health Service and Poverty: Making Health Services More Accessible to the Poor*, edited by Hiroko Uchimura, Institute of Developing Economies, 2007.
- 「医療制度改革—地方の負担の在り方を考える」『国際税制研究』No. 18, 2008 年。
- 「日本の医療保険制度の歩みとその今日的課題」『医療と社会』Vol. 18, No. 1, 2008 年。
- 「医療統計の体系化: 統計委員会の基本計画に向けて」『医療経済研究』Vol. 20, No. 1, 2008 年。
- * 「白内障手術における DPC による包括支払制度の評価」(縄田和満, 外山比南子, 高橋泰氏との共著)『医療と社会』Vol. 18, No. 2, 2008 年, 229-242 頁。
- * "Development of Social Health Insurance Systems: Retracing Japan's Experience," *Making Health Services More Accessible in Developing Countries: Finance and Health Resources for Functioning Health Systems*, edited by Hiroko Uchimura, Palgrave Macmillan, 2009, pp. 80-105.

- 「期待される医療統計のあり方」『病院』Vol. 68, No. 2, 医学書院, 2009 年, pp. 98-102.
- 「日本の医療保険制度」『経済セミナー』2009 年 4・5 月号, No. 647, 65-71 頁。
- 「医療経済学」『「医療政策」入門』(東京大学医療政策人材養成講座編), 医学書院, 2009 年, 97-114 頁。
- * "Evaluation of the Inclusive Payment System Based on the Diagnosis Procedure Combination with Respect to Cataract Operations in Japan" (with K. Nawata, H. Toyama, T. Takahashi) *Health* Vol. 1, No. 2, 2009, pp. 93 -103.
- 「社会的共通資本としての統計情報」『保健医療科学』Vol. 59, No. 1, 2010 年, pp. 17-20.
- * "Facilitators and barriers in the humanization of childbirth practice in Japan," (with R. Behruzi, M. Hatem, W. Fraser, L. Goulet, C. Misago) *BMC Pregnancy and Childbirth*, 10:25 (27 May 2010).
- * 「低所得世帯における社会保険と生活保護の現状に関する研究」(河口洋行氏との共著)『医療経済研究』Vol. 22, No.1, 2010 年, 91-108 頁。
- * "Did the Financial Crisis in Japan Affect Household Welfare Seriously?" (with Y. Sawada, K. Nawata, M. J. Lee) *Journal of Money, Credit, and Banking* , Vol.43, No.2-3 ,2011 , pp. 297-324.
- 「先進国の医療制度改革と日本への教訓 - オランダの家庭医療制度を中心に」『成長産業としての医療と介護—少子高齢化と財源難にどう取り組むか』八代尚宏・鈴木亘編, 日本経済新聞社, 2011 年, 211-237 頁。
- 「医療費の範囲と「国民医療費」」『医療経済学講義』橋本英樹・泉田信行編, 東京大学出版会, 2011 年, 253-273 頁。
- "Challenges in Reforming the Japanese Health Care System," *The Economics of Public Health Care Reform in Advanced and Emerging Economies*, International Monetary Fund 2012.
- * 「医師数, 医療機関数, 病床数, 患者数のバランスから評価した医療資源の地域格差とその推移」(関本美穂との共著)『厚生指標』9 月号, 2013 年。
- 「高齢者に必要な医療・介護とは? ——国民健康保険データ分析からの提言——」(森山美知子氏との共著) *ECO-FORUM* 29(2-3): p11-18 2014, 2 月。
- 「日本の患者は幸せか?【医療経済から見たプライマリ・ケアの重要性】」『環』2014 年 vol.56 pp.174-185.
- "Protecting Our Lives through Healthcare Reform" *Japan SPOTLIGHT* Jan/Feb 2014, pp.16-19.
- 「社会保障財政における番号制の活用と課題」(吉識宗佳氏との共著)『病院』2014 年 6 月, Vol.73, No.6, pp.440-444.

(d) その他

- 「今の医療でいいの? より時代のニーズにあった医療制度を考えよう」『教養としての経済学:生き抜く力を培うために』一橋大学経済学部編, 2013 年 2 月, 65-73 頁。
- 「医療の在り方を経済学で模索する」『身近な疑問が解ける経済学』日経文庫, 2014 年 9 月, 115-136 頁。

B. 最近の研究活動

(a) 国内外学会発表(基調報告・招待講演には*)

- * "A universal health-care system and the high cost of anti-cancer drug," The 23rd International Symposium on Breast Cancer: Challenges to Integration of Emerging Sciences, Tokyo, Japan, April 24, 2010.
- * 「地域医療再生基金の行方～本当に地域医療は再生されるのか?～」全国自治体病院学会第 50 回記念大会, 東京都千代田区 東京国際フォーラム, 2011 年 10 月 19 日 (招待講演)

*「国民が求める医療制度改革とは？」 第 3 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 メインシンポジウム『英国の家庭医療制度を知り日本の家庭医療の未来を模索する』, 2012 年 9 月 2 日(日) (招待講演) 福岡市

* Chair, Symposium: Health Care Financing, Asia Pacific Regional Conference of the World Organization of Family Doctors (WONCA) 2014, 22nd May 2014, Kuching, Malaysia

"The role of primary health care in controlling the cost of specialist health care, " 討論者, 国際シンポジウム「高齢者医療・介護統合モデルの構築と政策への適用(Managing Integration of Long Term Care of Elderly)」 2014 年 9 月 28 日 品川, 東京

*「幸せな日常を守るための医療制度改革とは？」 2014 年 Oral Physician チームミーティング, 酒田市 2014 年 10 月 5 日

(b) 国内研究プロジェクト

「医療政策のためのデータベースの構築と医療データの計量手法による分析」 2009 - 2012 年度, 科学研究費補助金, 基盤研究(B), 研究代表者

「OLAP(多次元データベース)による医療統計の公表手法開発に関する研究」 2011 年度, 厚生労働科学研究費補助金(政策科学総合研究事業(統計情報総合研究)), 研究分担者(研究代表者:岡本悦司)

「わが国におけるプライマリ・ケアの質の評価と医療制度に対する国民満足度の調査」 2013 年度, 野村財団

(c) 国際研究プロジェクト

「高齢者医療・介護統合モデルの構築と政策への適用ー 日米欧 8 カ国の国際共同研究ー」2012 - 2015 年度, 科学研究費補助金, 基盤研究(A), 研究分担者 (研究代表者:河口洋行)

「質と財政の両立を目指した医療制度構築のための基礎研究」2013 - 2017 年度, 科学研究費補助金, 基盤(B), 研究代表者

6. 学内行政

(a) 学内委員会

ハラスメント対策委員会委員 (2014 年 -)

7. 学外活動

(a) 他大学講師等

東京医科歯科大学医学部倫理審査委員会委員(2009 年 -)

東京医科歯科大学医学部非常勤講師(2010 年 -)

神戸大学医学部客員教授(2009 年 - 2013 年)

東京大学公共政策大学院医療政策教育・研究ユニット客員教授 (2014 年 -)

(b) 所属学会および学術活動

日本経済学会

International Health Economics Association

医療経済学会

(c) 公開講座・開放講座

- 「医療の質は見えるか」東京大学公共政策大学院主催「医療政策教育・研究ユニット」創設記念シンポジウム
「医療の質はどこまで見えるか～データ活用で拓く将来像～」, パネルディスカッション, 2010年6月26日
- 「日本の政府(公的)統計データベース」『医療データベースの研究利用と社会還元』第4回ヘルスアウトカムリサーチ支援事業年会, 2010年7月3日
- 「税と社会保障の抜本改革とは?」平成22年度神戸大学医学部学術講演会 2011年3月1日
- 「日本の医療制度を考える」日本医学ジャーナリスト協会 平成23年度通常総会 特別講演, 2011年5月24日
- 「社会保障と税の一体改革 財政の規律と安心の医療制度の実現」長野県立病院機構本部研修センター, 阿南病院, 2012年12月15日
- パネル討論 「『地域主権の医療』実現に向けた地方分権改革の役割」神奈川県庁 地方分権フォーラム, 2012 [テーマ:今、改めて地方分権を考える] 2012年2月6日, 横浜情報文化センター 情文ホール
- 「グローバルアジェンダを設定する:健康医療政策の優先順位」医療政策サミット 2012 ～Health Policy Summit2012～ シンポジスト, 2012年2月10日
- 「財政の規律と安心の医療制度の実現:日本に必要なジェネラリストとは?」平成23年度学術講演会, 神戸大学大学院医学研究科, 2012年2月28日
- 「日本の医療制度に必要とされるジェネラリストとは?」東京医科歯科大学 医学部医学科教育委員会主催ワークショップ 2012年3月5日
- 横浜市立大学 医学部 横浜市立大学医学部, 日本プライマリ・ケア連合学会神奈川支部, 2012年3月7日
- 「医療改革の突破口 ～家庭医・総合医制度の確立を～」176回 J.I.フォーラム 構想日本, 2012年4月26日
- 「社会保障と税の一体改革とは?」平成24年宮崎県医師会 勤務医部会総会・前期講演会, 2012年6月30日
- 「プライマリ・ケアで変わる日本の医療:質と財政 両立の鍵」BBL セミナー (独)経済産業研究所(RIETI), 2012年9月13日
- 「がんを持つ人のケアにおける家庭医の役割:国民の求める医療制度改革とは?」第27回札幌冬季がんセミナー 今がんを考える 2013—個別化治療、医療経済をめぐって—, 2013年2月10日
- 『日本発の社会保障モデル:地域で支える医療』「日本医療政策機構 サミット 2013 複合危機からの出発:超高齢化に我々はどう取り組むのか?～3.11から超高齢化への10年～」, 2013年2月22日
- 「今の医療でいいの? より時代のニーズにあった医療制度を考えよう」三鷹市教育委員会社会教育会館主催 平成25年度 市民大学事業 総合コース 「教育と福祉 ～子ども・自分・親の現在と未来～」で, 三鷹市民に医療制度について講義をした。
- JADECOM 総合診療フォーラム「今求められる総合診療医とは」全国町村会館, 2013年10月13日
- 「幸せな日常を守るための医療制度改革～医療経済の視点から」神奈川15区(茅ヶ崎, 平塚, 大磯, 二宮), 場所:平塚商工会議所, 2013年10月28日
- 「幸せな日常を守るための医療制度改革～医療経済の視点から」平成25年度学術講演会, 神戸大学 大学院医学研究科, 2013年12月9日
- 「医療制度改革は国民に痛みを伴うのか?」住宅政策研究会シンポジウム 「アベノミクスー日本経済に明るい未来は来るのかー」 2014年3月27日
- 大妻高等学校 模擬講義, 2014年11月19日

「医療経済の視点からの医療制度改革」大阪府私立病院協会事務長会, 2014年11月28日

「医療の在り方を経済学で模索する」社会保険特別研究会, 東京會館, 2015年1月26日

(d) その他

「医療経済研究」編集幹事(2004年 -)

公益財団法人二十一世紀文化学術財団 海外留学助成金 審査委員 (2009年 -)

ファイザーヘルスリサーチ振興財団理事 (2010年 -)

医学書院「病院」編集委員 (2011年 - 2014年)

社会保障人口問題研究所「海外社会保障研究」編集委員 (2011年 - 2015年)

公益財団法人東京経済研究センター 理事 (2012年 - 2014年)

株式会社 デサント 社外取締役 (2013年6月 -)

医療科学研究所 理事(2014年 -)

公益財団法人 総合研究開発機構 客員研究員(2014年11月 - 2015年3月)

8. 官公庁等各種審議会・委員会等における活動

地方分権改革推進委員会 委員(2007年 - 2010年)

統計委員会 委員(2007年 - 2011年)

内閣官房 社会保障改革に関する有識者検討会 委員 (2010年 - 2011年)

文部科学省特定領域研究専門委員会 委員(2010年12月 - 2011年11月, 2011年12月 - 2012年11月)

財政制度等審議会 委員 (2010年 - 2014年)

行政刷新会議分科会評価者 (2011年11月)

法制・公会計部会 委員 (2011年 - 2014年)

少子化危機突破タスクフォース(2013年 - 2014年)

政府税制調査会委員(2013年 -)

日本学術会議 連携委員 (2014年 -)

内閣府 政策コメンテーター委員会におけるコメンテーター(2014年 -)

日本放送協会 経営委員会委員 (2015年 -)

9. 一般的言論活動

「日本の患者は幸せか?」『経済セミナー』No. 654, 2010年6・7月号, 1-22頁。

「医療制度改革のヒントを探る」日経メディカル オンライン, 2010年7月6日, 10月5日。

(<http://medical.nikkeibp.co.jp/leaf/mem/pub/series/mckinsey/201010/516872.html>)

「フクシマから地域医療を考える シリーズ第4回震災と経済」『経済セミナー』, 2011-2012年12・1月号No.663, pp.56-61.

「地域密着の『家庭医』育てよう 疾病中心から患者中心に転換を」『朝日新聞 GLOBE』, 2012年7月1-14日。

研究室訪問「「プライマリ・ケア」を中心に日本の医療制度改革にアプローチ」広報誌 HQ vol.35 夏号(July 2012)。

「医療制度改革に新視点① 『家庭医』、質と財政 両立の鍵」『日本経済新聞』, 2012年8月1日。

- 「生活保護制度見直し(3) 貧困対策と医療制度改革」NHK テレビ『視点・論点』, 2012年11月28日。
- 「プライマリ・ケア体制の整備を急げ」『月刊経団連』, 2012年12月号。
- 「地域包括ケアの成否はプライマリ・ケアの確立」日本医業経営コンサルタント協会 機関誌『JAHMC』, 2013年1月号。
- 日本経済新聞やさしい経済学「医療の公平性」を連載 2014年2月17日 - 2014年2月28日 (『身近な疑問が解ける経済学』(日経文庫), 2014年に収録)。
- 「日本の医療制度改革、明日への処方箋」朝日新聞 WEBRONZA 2015年1月21日から連載。
<http://webronza.asahi.com/authors/2014122200001.html>
- 「社会保障改革しか道はないー今こそ、財政健全化への決意を示すときー」総合研究開発機構(NIRA)オピニオンペーパーNo.13 <http://www.nira.or.jp/pdf/opinion13.pdf> 2015年1月。
- 「社会保障改革しか道はない(第2弾)ー財政健全化に向けた具体策はここにあるー」総合研究開発機構(NIRA) オピニオンペーパーNo.14 <http://www.nira.or.jp/pdf/opinion14.pdf> 2015年2月。